

## 6. 事後調査の計画

### 6.1 事後調査の項目

対象事業に係る周辺環境への影響は、工事中は建設機械の稼働、資材および機械の運搬に用いる車両の運行、切土工等および施設の設置によるものが、供用時は自動車の走行、地形改変後の土地および工作物の存在によるものが考えられている。

前章までに記載したとおり、これらについて生活環境や自然環境に与える影響の程度を予測・評価した結果、環境保全措置として、植物については移植、コウモリ類や猛禽類およびクマゲラについては樹木伐採時期の調整、また、コウモリ類については伐採時の伐木からの個体の保護、を講じることで影響は低減されると評価された。

事後調査は、植物においては、環境保全措置(移植)の効果を検証するため、移植後の生育状況把握のためのモニタリングを実施することとする。その結果によっては、追加の保全措置を講じることを検討する。

コウモリ類、重要な猛禽類およびクマゲラについては、事業実施区域およびその周辺がこれらの主要な生息地の一部であり、今後事業実施区域の直近で営巣する可能性も考えられるため、工事着手前に生息・営巣状況把握のための調査を実施する。

また、供用後におけるコウモリ類の生息状況(事業による影響)を把握するため、データロガー型バットディテクターを使用した鳴き声調査を実施する。

さらに、事業の実施やそれに伴う環境の変化により外来種の侵入・分布拡大が懸念されることから、施設供用後に外来種の生育・生息状況を把握するための調査を実施する。

表 6.1-1 事後調査を実施する項目およびその理由

環境要素	事後調査項目	事後調査を実施する理由
植物	移植後の生育状況把握	環境保全措置(移植)の効果を検証するため その結果によっては追加の保全措置を検討するため
コウモリ類 猛禽類重要種 クマゲラ	工事着手前における 生息・営巣状況把握	現況では営巣は確認されていないが、今後事業実施区域内およびその直近で営巣する可能性が考えられるため その結果によっては追加の保全措置を検討するため
コウモリ類	施設供用後における 生息状況把握	本事業による影響の程度を把握するため
外来種	施設供用後における 外来種の生育・生息 状況把握	事業の実施やそれに伴う環境の変化により外来種の侵入・分布拡大が懸念されるため

## 6.2 事後調査の内容

事後調査の内容は、表 6.2-1 に示すとおりである。

表 6.2-1 事後調査の内容

環境要素	事後調査を実施する内容
植物	【調査項目】 移植植物の生育状況 【調査時期】 移植植物の開花・結実時期 (移植後 2 年程度、生育状況に応じて 5 年程度を目安に延長) 【調査地】 移植先 【調査方法】 目視および計測(生育株数、草丈、開花・結実状況等)
コウモリ類 猛禽類重要種 クマゲラ	【調査項目】 コウモリ類、猛禽類重要種、クマゲラの営巣状況 【調査時期】 工事着手前年における対象種の繁殖期 【調査地】 事業実施区域およびその周辺 【調査方法】 林内踏査(目視観察)
コウモリ類	【調査項目】 コウモリ類の生息状況 【調査時期】 施設供用後におけるコウモリ類の活動期(春季～秋季) 【調査地】 事業実施区域およびその周辺 【調査方法】 鳴き声調査(データロガー型バットディテクターを使用)
外来種	【調査項目】 外来種の生育・生息状況 【調査時期】 施設供用後(植物移植後モニタリングと併行して実施) 【調査地】 事業実施区域 【調査方法】 目視観察

## 6.3 事後調査報告書の提出時期

事後調査の結果は、調査項目ごとに、その結果を速やかにとりまとめ、札幌市ホームページに掲載し、公表する。

なお、事後調査の結果によっては、必要に応じて、追加の保全措置を講じることを検討する。